

第6回
トラック輸送における取引環境・労働時間改善
青森県協議会

日 時：平成29年3月3日（金曜日）

13：30～

場 所：ホテル青森 3階 はまなすの間

◎開 会

【事務局 葛西】

ただいまより第6回トラック輸送における取引環境・労働時間改善青森県協議会を開催させていただきます。

委員の皆様方におかれましては、お忙しいなかお集まりいただき、誠にありがとうございます。

前回に引き続き、座長にバトンを引き継ぐまでの間、進行を務めさせていただきます、青森県トラック協会事務局長の葛西でございます。よろしくお願いいたします。

本協議会の委員は「委員名簿」、また本日の出席者は「出席者名簿」のとおりでございます。名簿にてご紹介にかえさせていただきます。

なお、本日はオブザーバーとしての出席がございますので、ご紹介させていただきます。

十和田おいらせ農業協同組合指導やさい部やさい販売課長、工藤惣史様でございます。東北農政局経営・事業支援部食品企業課課長補佐、村中大樹様でございます。

次に、本日の配付資料を確認させていただきます。

上から「議事次第」、「委員名簿」、「出席者名簿」、「配席図」とございます。その次に緑色の資料、資料1「トラック運送事業の長時間労働改善に向けたパイロット事業実施結果」、資料2「朝積みの時間の前倒し」と「荷物の区分け・整理する」ことによる荷積み時間削減」、資料2-2「調査事業実施報告書目次(案)構成イメージ」、資料3「農産品物流の現状」、続きまして参考資料1「下請等中小企業の取引条件に関する関係府省等連絡会議関係の取組みについて」、参考資料2「トラック運送事業者のための価格交渉ノウハウ・ハンドブック」、参考資料3「運送委託者の方へのお知らせ」、最後に参考資料4「荷主勧告が発動されやすくなります!」という資料です。これらの資料を皆様のお手元にお配りさせていただいております。不足等ございましたら、会議途中でも結構でございますので、事務局にお申しつけください。

◎開会挨拶

それでは、協議会の開催にあたりまして、片淵仁文青森労働局長よりご挨拶を申し上げます。

【青森労働局長 片淵】

ただいまご紹介に預かりました青森労働局長の片淵でございます。

本日はお忙しいなか、本協議会にご出席賜りましてありがとうございます。

また、日ごろより労働行政にご理解とご協力を賜りまして、重ねて感謝申し上げます。

さて、本協議会は今年度に入りまして3回目ということで、昨年度の協議会発足以来6回目の開催ということになります。本日は、パイロット事業に関しまして、先般行われました実証実験の結果について報告があると聞いております。

本事業については、未だに実証実験が実施されていない都道府県もあるそうですが、青森県においては、関係者のご協力を得まして無事実証実験が終了したということで安心をしているところであります。本協議会の委員でもある中長運送株式会社の中村社長、また本日オブザーバーとして協議会にご参加いただいた工藤様をはじめ十和田おいらせ農業協同組合の皆様方には、パイロット事業にご理解とご協力を賜りまして、改めまして深く感謝申し上げます。

既にご案内のとおり、このパイロット事業はトラック運送業界の取引環境やトラックの運転者の長時間労働の改善に資する重要な事業であります。また、そういうことから各方面から非常に注目をされているところでございます。実証実験結果につきましては、今後策定が予定されている「長時間労働改善ガイドライン」に反映されることから、本協議会においてしっかりと確認していく必要があると考えております。

委員の皆様方には、これまでの協議会同様、忌憚のないご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【事務局 葛西】

ありがとうございました。

それでは、ただいまから井上座長様、以降の進行をよろしく願いいたします。

◎座長挨拶

【井上座長】

お久しぶりでございます。井上です。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、今お話ありましたように平成28年度の実証実験の結果について報告をいただくことになっております。大変期待しておりましたので楽しみにしたいと思っておりますが、もう一方で平成29年度はどうするかがもう一つの議題になっております。前向きに取り組むことになる

とすれば、更なる成果を期待しましていろいろご意見承りたいと思っておりますので、ご協力
よろしく願いいたします。

それでは、本日の議事の進め方につきまして、あらかじめご説明を申し上げたいと思います。
次第にありますように議題1「平成28年度パイロット事業の実施結果について」事務局から
ご説明いただき、関連しまして「農産品物流の現状」を東北農政局からご説明をいただいたあ
と、皆様からのご意見、ご質問等をいただきたいと思いますと思っております。その後、議題2「平成2
9年度パイロット事業について」事務局からご説明いただいたあと、再度、皆様からご意見な
どをいただきたいと思いますと思っております。議題3「その他」では、事務局より情報提供がございま
す。

◎議 事

①平成28年度パイロット事業の実施結果について

【井上座長】

それでは議事に入りたいと思います。議題1の「平成28年度パイロット事業の実施結果に
ついて」事務局より説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

〔事務局より資料1、2、2-2、説明〕

【井上座長】

どうもありがとうございました。

関連しまして、「農産品物流の現状」につきまして、東北農政局から説明をお願いしたいと
思います。よろしく願いいたします。

〔東北農政局より資料3、説明〕

【井上座長】

どうもありがとうございました。

せっかくですので、今回パイロット事業に参加していただきました荷主と運送事業者から、
何か補足説明ありましたらお願いしたいと思います。十和田おいらせ農業協同組合の工藤課長
様お願いいたします。

【工藤オブ】（十和田おいらせ農業協同組合）

今回このパイロット事業に参加して、実証実験ということで①朝早く積み込みをする、②パレット積みを事前に仕分けをしておくということで、トラック自体の運送時間が短縮ということになったかと思います。

確かにトラックの手配などが最近では難しくなっているのが現状でして、そういった部分も改善していかなければならないということはわかってはおりますけれども、実際には現場サイドとしますと朝早く出勤させるなど、そういった荷主としての雇用の確保という部分が今度は難しくなっていくのかなど。実際、今職員以外にも多数のパート等が働いているわけですがけれども、なかなか継続的に働いてくれる方が少なくなっているのが現状です。そういった部門においても人員の確保が難しいということから、実際には試験としては大変成功していくと思っておりますけれども、実際にこれを長期に渡って続けるというのは、なかなか厳しい部分があるのかなど。

やはり抜本的に物流のシステム、農産物というのが工業製品等とは違って難しい部分もあるかと思っておりますけれども、コールドチェーンの確立など全国的規模で考えて進んでいかないと難しいのかなということ。特に本州最北の青森県というところから関東圏や中京圏など、そういったところまで運ぶとなるとかなり厳しいのかなというのは考えてはおります。その課題をどうやって解決したらいいのかというのは、ちょっとまだ明確にはなっていないというのが本音です。

以上です。

【井上座長】

どうもありがとうございました。

続きまして、運送事業者である中村委員からお願いしたいと思います。

【中村委員】（中長運送株式会社）

当初、私どもも長距離トラック輸送というのは長時間労働の最たるものですから、これを解決するということは、もう初めから私も無理だなという頭になっていましたし、更にまたこういうようなパイロット事業に参加するとも思いませんでした。それでも、この青森県の中で誰もやらないというのもだめですし、行政、事務局の方々なども皆さん協力してくれるということでお引き受けしました。

最初に農協さんに相談に行きましたが、当初から理解を示してくれまして、これはよかったなと思って、一つは安心しました。

それから、一つ一つ取り組んでいくなかで、今言った積み時間、それから卸し箇所の削減など、いろいろな方法を一つ一つ取り上げて説明したところ、農協さんでもそれはいい方法だなということで、少しずつ話が進んでいきました。ただ1年間でのこれら少ない資料の中ですけれども、これにより多少なりとも今までよりは、時間を短縮できるなという感触をつかみました。

私たち青森県の食品を長距離輸送する人たちにとっては、本当に頭を悩ませているところで、我々1者だけだとなかなか難しいですけれど、これを有志の方々が理解を示してくれて、ある程度話の中に参加してくれれば、意外と進むのかなという感じを受けました。

これから私たちの長距離の仲間であります運送事業者の人たちにも広げて、また荷主の方々にもこういうことをもっと広げていけば、もっともっと広がるのかなという感じを受けます。

ただ、それでも幾ら頑張ってもなかなか解決できない問題はありますけれども、できるところからまず始めて、そのできないものはもう二の次にして、できるところからまず始めていくことが一番いいのかなと思います。

特に、この人手不足の世の中で、今までも農協さんを何カ所も集めにまわって歩いて、もう出発時間だから作業するなというようなこともありましたし、ちょうどなかなか車も人も集めにくくなってた時期でした。あと農協さんの方でも危機感を感じてたところでもありました。その時期的にちょうどよかったのかなと感じております。

これからも、こういうような取り組みをまだまだもうちょっと進めていって、長距離ばかりじゃないですけれども、地場の方でもいっぱいそういう長時間労働ありますから、そちらの方にも向けて少しずつ取り組めるのかなという今気持ちでおります。

今後ともご協力の程よろしく申し上げます。

【井上座長】

どうもありがとうございました。

それでは、事務局から「平成28年度パイロット事業の実施結果について」、それから東北農政局から「農産品物流の現状」につきましてご説明いただきました。

また、今回パイロット事業に参画いただきました、荷主、運送事業者の方からのご発言、補足説明もありました。

これを受けまして、委員の皆様からご意見、ご感想などを承りたいと思いますが、どなたからでも結構ですので、お手を挙げてお願いしたいと思います。いかがでいらっしゃいますでしょうか。

【荒谷委員】（三八五流通株式会社）

三八五流通の荒谷です。

今のパイロット事業を実施したなかで、実質的にパレット積みというのは何%ぐらいですか。

【中村委員】（中長運送株式会社）

今野菜はウチの方ではほとんど100%に近い。ただ問題がありまして。パレット積みにして、そのパレットを農協に卸してくる。卸していったときに、必ず市場にパレットあります、それを引き取ってくる形になります。ただ、その引き取ってくることによって、パレットスペースを取られて、今度は帰りの荷物が積めない。そこら辺が今ちょっとネックになっている。ということで、できるだけ普段からそのパレットを集めるようにしているという状況です。

【荒谷委員】（三八五流通株式会社）

今ウチでやらせているのは100%パレットですよね。市場から回収ですよ。ですから、回収の料金が出てこない。それがこうなっている以上、みんな業者はお金に泣いているわけですよ。考えてみれば、1車に何パレット積んでいますか、全部パレットで。

【中村委員】（中長運送株式会社）

大体16パレットぐらい。16パレットというと、ちょうど1メートルの幅で大体9分の1ぐらいのスペースをとります。

【荒谷委員】（三八五流通株式会社）

考えてみれば、仮に1車に2,000個を個建てで積んで、これを一人で卸せなんて言ったら倒れますよ。トマトなんか2,000ケースになりますから。大体年に2回ぐらい市場で倒れる人もいます。これはもうだめだということで全部パレットにしましたからね。ですから、個建て運賃というのがまず間違っていると思いますよ。車建て運賃にしなければならぬですね。車上渡し、車上・下車上渡しが基本になるわけですがけれども、なかなかそういう訳にはいかな

い。でも、個建てでやっている間は、絶対パレット積みまで進んでいかないですよ、積載が落ちますから。

でも、それを思い切ってやっていかないと。

【中村委員】（中長運送株式会社）

それこそ2年ぐらい前に運賃の見直しを決めたこともある。1台の平均単価を出します、そして今のそのパレットの運賃と比較して。やっぱり平積みとパレットでは大分もう違います。そこら辺の比較をしてみて、じゃあ今平均どれぐらいか、年間通して。それでまずこれくらいでお願いしますということですね。

【荒谷委員】（三八五流通株式会社）

車建てっていうのがまず一番でないか。

【中村委員】（中長運送株式会社）

車建てにすると、今度は農協さんの方が大変になるのかなと。

また、今度はドライバーの人たちがどうせもう積まなくなるという可能性もあります。指導の問題。過積載はできませんから、過積載しない程度にやっていかないと。

【荒谷委員】（三八五流通株式会社）

でも我々も考えているんですが、積載が下がってもやむを得ないと。もうこれ以上長時間労働じゃだめだと。もう短縮していかなければいけないというのが主流な訳ですね。もうどっかでやっぱりコンプライアンスっていうのを、社内の中でやっていかないともう改善にならないでしょうね。

だから、100%パレット積みにするというのであれば、かなりの改善ですよ。ただ、市場が何回で卸しているかわかりませんが、何カ所の集荷に対して何カ所卸して、パレットかどうか、その辺が明確に数字として出てくればいいのかと。せっかくいい話出ましたから、もうちょっと具体的に細かいところまで教えてもらえれば。

でも、パレットは常に回収していますよ。持ってこないと本人が困るからだね。よく集めてきますよ。びっくりします。

【中村委員】（中長運送株式会社）

ただ、これが全国的になると絶対パレットは足りなくなりますよ。

【荒谷委員】（三八五流通株式会社）

パレットもどのくらい入るんだろうね。積載云々というのものもあるけれど、やっぱりこれだけ物自体が小さくなっていくと。20年前から見たらもう随分小さいですからね。

【井上座長】

ありがとうございました。ほかに。お願いいたします。

【及川委員】（日本通運株式会社）

大変今回のパイロット事業を行っていただいた企業様と運送事業者様にまず申し上げますと、実際話し合いをやって、改善に向けての荷役効率というところでいくと非常に効果は出たということで、今後さらに効率化に向けて考えていけば、もう少し縮められる余地はあるのかなと思いますけれども、この緑色の資料の6ページで、分析結果というのが出ていますけれども、1日の拘束時間が最大16時間なんですけど、結果的には15.5時間なわけですよ。じゃあそれでいいのかって言ったらやっぱり無理であるというふうに思います。

それと、やっぱり一番問題なのが、今回関東まで持っていっているのが、運転時間、これがどうしても物理的に無理な状況にあると。出発時間を早めて、荷役効率も上げて、結果的にはこれでいうと10.5時間という数字で、なお9時間を超えているというような状況。この辺を何とかしないと、やはり青森県から関東圏、先ほどお話ありましたけれども、この辺の物流のあり方を変えていかないとなかなか厳しいのかなと思います。

ですから、トラックだけという捉え方じゃなくて、先ほども農協さんのほうから出ていた資料にもありましたけれども、コンテナ輸送などそういった部分も入れながらやらないと、なかなか改善というのは厳しいのかなと思います。

あと、荷役効率の部分については、先ほどパレットの話がいろいろと出ていますけれども、やっぱりパレットを扱っての荷役効率というのは非常に大切だろうと思います。

以上です。

【井上座長】

どうもありがとうございました。ほかにご感想、ご意見などありましたらお願いしたいと思っています。

先ほどはJAさんから、早朝の出発を前倒しするというのは、ともかく実験段階ではできたけれども、7時から動き出すということで社員の人たちはもっと早くから来てもらわなくちゃいけないことになるわけで、それが常態化されると人材を長期に確保するのは難しい可能性が高いというお話もありました。

【中村委員】（中長運送株式会社）

当初案として、朝6時からということでコンサルから提案がありましたけれども、ただ朝6時からということになると、そこに勤める社員、ドライバーは朝5時ごろにはもう起きて来なければならない。そうすると、運行途中でもう眠くなる可能性もありますから、そこら辺が全てその時間に合わせられるかということこれは難しいところはあります。社員やドライバーのなかには、早くても良いという人もいればイヤだという人もいますし、さまざまその年齢や生活でも違いますし、一概にじゃあ全部をこれに合わせられるかっていうと、これはまたちょっと違うと思います。

【井上座長】

でも、今いろいろご意見が出たのも実証実験をやってみた結果として、ああこういう問題もあるんだといった次の課題が見えてきたわけで、それはそれで今後の課題として置いておきたいと思いますが、ほかにご意見、ご感想などありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでいらっしゃいますでしょうか。

資料1だけではなくて、2、3も含めて全部でご感想いただければと思いますけれども。

先ほど農林水産省のペーパーでご説明いただいたなかで、私が大変印象深かったのは3ページのところで、物流でIT技術を活用したのが進んでいないという話がありました。実は物流といいましても、食品関連と食品関連以外ではちょっと事情が違いますけれども、食品関連のなかでも、特に農産品物流ではまだIT活用が進んでいないという印象を農水省は持ってらっしゃるんだろうと思います。日通が事実上経営して設立している大学が茨城県にありまして、流通経済大学といますが。その研究紀要をよく見ますと、そういう雑誌からも大体同じようなことが出てきまして、多分この辺もこれから先のヒントになるんだろうと。

それから、出発時間を早めたことで、到着した着荷主側での受け取り時間をずらしていった、時間を大分節約できたわけですがけれども、東北地方全体が次は同じことやるんですよ今度は。そうすると、その到着が集中しないようにバランス化するには、多分今のIT技術だったらそんなに難しくはないわけで、ちょっと導入する必要があるんだろうと。

それから、ペーパーの全体を伺っていて、これから先の課題なんでしょうけれども、着荷主側の協力をもう少し仰ぐ必要があるのかなと思いましたが、着荷主の側でもっと受け入れ体制をきちっとして、混雑しないようにする努力をしなければならないというようなことは、国交省のペーパーでは繰り返し出てきていまして、その辺もこれからの課題になるのかなと思って聞いていたところなんですけれども、いかがでいらっしゃいますでしょうか。

ただ私としては、今回の実証実験の結果だけでとりあえずまとめるとすれば、事務局のまとめはこれこれとしてこのとおり今回は整理しておいて、ここから再度浮かび上がってきたいいですか、新たに浮かび上がってきた課題も含めて、今後に向けてそれを活用していけばいいのかなと思っておりますけれども、何かご意見、ご感想ありましたらお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

【東北運輸局次長 角野】

東北運輸局です。

各県で実証実験をやっていただいておりますが、各県、東北のなかでも青森が非常にうまく進んでおられて、ただ今委員長もおっしゃいましたように、こういったもの一応実験ではうまくいっても、その持続性というのはなかなかとりづらいものでありますし、あるところにしわ寄せが行って、それだけに頼って成立するというのはなかなか難しいところがあるのかなと思います。

そういうなかで見えますと、やはり朝ずらすことによって、結局到着側の混雑を回避するというところでありますが、着荷主の問題、今委員長おっしゃいましたように、非常に一般的な物流だと、荷主、発荷主の企業様の話も、着荷主に迷惑を何があってもかけたくないということで、なかなかそういった議論も進まないわけですが、少し農産物の物流の場合、少し違っておるように思います。且つ、この市場っていうのは非常に混雑をする、もう物流の効率性から見ると非常に大きな問題をはらんでおります。

また、委員長おっしゃいますようにIT化でありますとか、そういったものを進める予算措置が個々の物流だとなかなか難しいことだと思っておりますけれども、こういった市場という非常に

集約された空間でありますし、そういうIT化等も比較的進めやすい。そういう意味で非常に大きな問題であります。これ来年1年の実証実験に市場の問題、とてもその1年で片づかない課題だと思いますけれども、ぜひ農水省さんとも意見を交換させていただきながら、どうすれば、その方向性だけでも、こういう調査の中で議論をしていかなければと考えています。

以上でございます。

【井上座長】

どうもありがとうございました。

ほかにご意見あれば承りたいと思いますが、いかがでいらっしゃいますでしょうか。

それでは、いろいろなご意見いただきまして、これは財産として記録させておいていただき、次年度に向けたなかでできるだけ取り入れたい、考慮できるものはすることにいたしまして、「平成28年度パイロット事業の実施結果について」は事務局の取りまとめのとおりしたいと思います。ありがとうございます。よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

ありがとうございました。

②平成29年度パイロット事業について

【井上座長】

続きまして、議題2の「平成29年度パイロット事業について」につきまして、事務局からご説明をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

〔事務局より口頭説明〕

【井上座長】

ありがとうございました。

ただいま事務局が「平成29年度パイロット事業について」につきまして口頭でご説明申し上げたわけですが、それにつきましてご意見などありましたらお願いしたいと思っております。こういった点に注意した方がいいとか、こういったことも組み込んでみたらどうかといったようなこともありましたらお願いしたいと思っております。いかがでいらっしゃいますでしょうか。

では、また今回と同様、新しい問題や課題が出てこようかと思っておりますけれども、一応今事務局が予定しているその方向でやっていただくということにしたいと思っております。

③その他

【井上座長】

それでは、議題の3に移りたいと思いますけれども、③その他に入ります。事務局から情報提供があるということでございますので、よろしく願いいたします。

[事務局より参考資料1、2、3、4説明]

【井上座長】

どうもありがとうございました。

③その他で情報提供いただきました。ほかに事務局から追加はよろしいでしょうか。

それでは、議題も一通り終わりましたので、各委員の皆様から、全ての議題につきまして通して、言い忘れたとかこれ言っとかなきゃというのがありましたら、ご意見頂戴したいと思います。いかがでいらっしゃいますでしょうか。（「はい」の声あり）木村さん、お願いいたします。

【木村委員】（青森県トラック協会）

トラック協会の木村と申します。よろしく願いいたします。

今回のパイロット事業の感想といたしまして一言申し上げますが、まずはパイロット事業に取り組んでいただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

お話によりますと、近県なかでも青森県でのこのパイロット事業が大変うまくいっていると。こういうようなことで、これはJAおいらせ様、また中長運送様のご協力でよい成果が出たものと思っております。本当に改めて御礼申し上げたいと思っております。

また来年度もパイロット事業実施されるということでございます。今後、長い時間になると思いますがご理解いただきまして、協会としてもお願いしていきながら頑張っていきたいというふうに思います。

ありがとうございました。

【井上座長】

どうもありがとうございました。

ほかにいかがでいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

今、追加の情報提供のなかで、ちょっとお聞きしたいところがありまして、昔から今もそうなんです、物流で到着した段階で、受け手の側でフォークリフトが足りない、人員が足りない、荷さばき場が手詰まる、いろんな理由があってなんです、トラックを延々と待たせておくというのが、昔から当たり前みたいに行われてきた。それはぐあいが悪いんじゃないかというのが、流通経済論の中で言われていることです。先ほど情報提供いただきました参考資料の6ページの下の方に、長時間労働の削減のところ、待ち時間、特に着荷主側における待ち時間の解消へ向けた取り組みへの理解と協力というのが、これが割と国交省の資料では度々出てくる考え方です。したがって、我々としては本年度の実証実験のなかにどの程度組み込むかはともかくとしまして、着荷主の側にも少し状況を理解いただいてご協力いただくような姿勢でやっぱりいかないと。どうしても運送事業者と発荷主だけの努力では多分時間の短縮にも限界が来るだろうというような印象を持った次第です。国として、どこにどういう問題があるかというのをご理解いただいて、「長時間労働削減」の一番最初のところに着荷主側における理解と協力というのが入っているんだろうなと思って聞いていた次第です。

ほかにご意見、ご感想、ご質問ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでいらっしゃいますでしょうか。大体よろしいでしょうか。

それでは、以上で本日予定されておりました議事は全て終了いたしましたので、マイクを事務局にお返ししたいと思います。ご協力ありがとうございました。

◎閉 会

【事務局 葛西】

それでは最後に、協議会終了に当たりまして、角野東北運輸局次長よりご挨拶申し上げます。

【東北運輸局次長 角野】

本日は委員の皆様方、また関係の皆様方、大変お忙しいなかご出席をいただきまして、ご議論いただいたところでございます。本当にありがとうございました。

トラックの人手不足の問題、昨今は大手の宅配事業者さんがもう現状のサービスが維持できないといったようなことが新聞等で取りざたされ、社会的な関心も高まりつつあるというような認識をしておるところでございます。

本日の会議では、今年度実施をしていただきましたパイロット事業の結果につきまして、ご報告をしていただいたところでございます。今回の取り組みにも参画をいただきました十和

田おいらせ農業協同組合様、また中長運送株式会社様など、改めまして感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

今回の実験を通しまして、解決できた課題、また今後の課題として残されたテーマがあったわけですが、こういった形で荷主様と運送事業者の間で、問題の解決に向けた前向きな議論などを持てたことは、非常に重要なことであると考えております。

このパイロット事業でございますけれども、本年度と来年度の2カ年実施をするということでございまして、ただいまご議論がございましたように、来年度におきましても十和田おいらせ農業協同組合様並びに中長運送株式会社様に引き続きご協力をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、ぜひ引き続きご指導いただきますよう、どうぞよろしくお願いをいたします。

本日は大変お忙しいところ、まことにありがとうございました。

【事務局 葛西】

長時間にわたり熱心なご議論をいただき、まことにありがとうございました。

議事全て終了となりましたので、これで本日の協議会は終了させていただきます。

なお、議事録につきましては、委員の皆様にご確認いただいた後に公表させていただく予定としております。

また、次回開催日等につきましては追ってご連絡させていただきます。

ありがとうございました。以上でございます。